

社会福祉学科における「社会精神医学」の意義

The Meaning of Studying "Social Psychiatry" for Students
in the Department of Social Welfare

増野 肇

1. はじめに

筆者は日本女子大で教職についてから、「社会精神医学」というタイトルで講義を行なってきた。この講座は早朝の第1時限にも関わらず、毎年百人前後の受講者があり、その運営に苦勞している。筆者が所属している社会福祉学科の学生が多いのは当然であるが、他学科の学生も少なくない。近年、一般にも精神医学関係の図書が、それ以外の医学書とともに多く読まれているのは、社会の健康への関心が強くなっていることと関連があるだろう。そして、その中でも心の問題が注目を浴びてきているのは、現代社会の不安のあらわれとも言えるのではないだろうか。同じ事が、本校の学生にも言えるのかもしれない。そこで、社会福祉学科の選択科目である「社会精神医学」がどのような理由で選択され、何を期待されているかを、授業開始時に施行したアンケートを元に分析し、現代の学生の精神医学や精神病への見方、関心の在り方を調査し、社会福祉を専攻する学生における特徴があるかどうかを検討してみた。また、期末試験の際に、本講座における印象に残ったことを記入してもらっているので、この講座を通して、どのようなことを学び、それが当初の期待をどのように満足させているかも検討した。

授業の内容は、百人前後の大集団ということも考慮して、いかに相互のコミュニケーションを深めるかに苦勞した。後期には、小集団ごとに希望するテーマについて調査研究させ、発表させたの

もその一つである。そのような運営形態も含めて、「社会精神医学」の役割、意味を考察したい。

2. 方法

1991年に筆者が「社会精神医学」講座を担当した時から、年度始めの最初の授業時に、受講学生を対象にアンケートを行なってきた。最初の授業時に、1年間どのような形式で授業を進めるかについて説明したあと、全員にアンケート記入をさせている。その際の説明のなかでは、前期には毎回講義の終に、6人前後のグループでの話し合いをすること、後期においては、A) 精神医学、B) 治療に関するもの、C) 社会病理に関する幾つかのテーマを提示し、その中から自分の好きなテーマを選んで、何人かのグループで調査研究し発表する事が求められていることを話した。

アンケートで問うた項目は、1. この講座を選択した理由。2. この講座に期待すること。3. 「精神病」と言う言葉から何を考えるか。4. 大学生活のなかで印象に残っていること。1) 嬉しかったこと。楽しかったこと。2) 嫌なこと。問題を感じていること。以上の5点について記入させている。

授業の構造としては、前期には主として講義を中心とし、精神医学の歴史、精神のとらえ方、身体、心理、社会的観点からの理解の仕方を教え、脳の構造や疾病の全体的理解には、NHKで放映されたビデオなどを活用した。講義のあとには、15分ぐらいの小グループによる話し合いをさせ、

1) 印象に残ったこと、2) 疑問点、について記入し、提出するようにした。提出されたレポートは、毎週筆者が1枚の用紙にまとめ、疑問点には回答を書き、次の時間のウォーミングアップに利用し、15分ぐらい疑問点をただし、重要な点を補強することで次のテーマに移ることにした。脳の構造の説明に、サイコドラマ的技法を用いたこともある。総論が終わると、前述した3部類、約30のテーマを板書し、その中から各自が希望するテーマを選択させ、後期にはグループで発表するようにした。一つのテーマに集中したときには、相互の話し合いで一つのテーマに7人以上超えないようにした。性の問題については、希望者があまりにも多かったので、2つのテーマに分けて分担させた。前期の最後に、「精神分裂病」というテーマで筆者がモデルを示し、各グループごとに、レジュメを作成し、もっとも重要なことに絞って、各グループ15分で発表するようにした。実際には、15分を超えることが多く、あとの発表者に齟齬が来たり、話し合いの時間が短縮されることも多かった。

期末の試験は記入式の試験を行なったが、その

最後の項目に、<「社会精神医学」でもっとも印象に残っていることおよび感想>を記入させた。期末試験は個人評価となるが、グループ発表は、グループ全体として評価し、それに出席状況を考慮して採点した。

3. 結 果

1) 対 象

学生の所属学科ごとに、講座登記者、その中でアンケートに記入したもの、アンケートは記入しているが登録しなかったもの、学部2年生、3年生以上というふうに分けたのが表1である。社会福祉学科の学生が75名と半数を占め、現代社会学科がその次となっている。アンケートは記入したものの登録はしなかったものが25名、新たに登録したものが、37名で、社会福祉学科にとくに多い。2年生は、全体で63%をしめるが、社会福祉学科では、82.7%と圧倒的に2年生が多数である。これにたいして、現代社会学科と心理学科では3年生以上が多い。3年生以上といっても、4年生は3人にすぎない。

表1 対 象

	登 録 者 (アンケート記入者)	2 年 生 (アンケート記入者)	3 年 生 以 上 (アンケート記入者)	非 登 録 者
社会福祉学科	75名(56名)	62名(47名)	13名(9名)	9名
現代社会学科	31 (23)	8 (6)	23 (17)	6
教 育 学 科	20 (17)	15 (12)	5 (5)	2
心 理 学 科	14 (9)	3 (3)	11 (6)	6
文 化 学 科	9 (7)	6 (5)	3 (2)	2
合 計	149 (112)	94 (73)	55 (39)	25

表2 講座選択の理由

選択の理由	社会福祉学科	社会福祉以外の学科	2年生	3年生以上	合計
全体に興味がある	13(23.2%)	7(12.5%)	16(21.9%)	4(10.3%)	20(17.9%)
精神医学・医学	18(32.1%)	22(39.3%)	23(31.5%)	17(43.6%)	40(35.7%)
心の問題	13(23.2%)	7(12.5%)	16(21.9%)	4(10.3%)	20(17.9%)
社会病理	5(8.9%)	6(10.7%)	7(9.6%)	4(10.3%)	11(9.8%)
合計	45(80.4%)	38(67.9%)	55(75.3%)	28(71.8%)	83(74.1%)
進路上	6(10.7%)	8(14.3%)	8(11.0%)	6(15.4%)	14(12.5%)
情報から					
便覧から	0	4(7.1%)	4(5.5%)	0	4(3.6%)
友人から	5(8.9%)	5(8.9%)	5(6.8%)	5(12.8%)	10(8.9%)
自分や友人知人のため	3(5.4%)	5(8.9%)	6(8.2%)	2(5.1%)	8(7.1%)
その他	3(5.4%)	2(3.6%)	2(2.7%)	3(7.7%)	5(4.5%)

2) 講座選択の理由

なぜこの講座を選択したかという問いに対しては、表2にまとめた。一般に興味があるというのが20名に対し、精神医学、あるいは、医学に関心のあるものが40名(35.7%)を占めている。社会福祉学科では、心の面からの関心の方が、社会面からの関心より大きい。便覧を読んで選んでい

ると記入したものは少なく、教育学科の3名がそのなかでは目立った。進路上目的にそって選択しているのが心理学科に多く見られた。

3) 講座に期待するもの

何をこの講座に期待しているかは表3に示す。

A) 精神病に対する知識を増やしたいというも

表3 表何を期待するか

期待するもの	社会福祉学科	社会福祉以外の学科	2年生	3年生以上	合計
知識を得る 病気や治療など	18(32.1%)	36(64.3%)	28(38.4%)	26(66.7%)	54(48.2%)
内容の問題 具体的・先生の体験 面白く・分かりやすく	18(32.1%)	11(19.6%)	20(27.4%)	9(23.1%)	29(25.9%)
自己の成長 主体的参加	17(30.4%)	12(21.4%)	25(34.2%)	4(10.3%)	29(25.9%)
役に立つ 誰かを援助する	0	5(8.9%)	1(1.4%)	4(10.3%)	5(4.5%)

の、B) ビデオを見たり、具体的な医師としての体験を聞きたいなど内容を期待しているもの、C) 自分を成長させたい、創造的授業をしたい等の主体的行動と結びついているもの、D) 友人を助きたい等特別な意図を持っているものに分けてみた。精神病についていろいろ知りたいというのが54名(48.2%)で、社会福祉以外の3年生に多く見られた。一方、自分自身になにか役立てたいというのは、社会福祉学科の2年生に多い傾向が見られた。

4) 「精神病」という言葉から何を考えるか

記入されたものを表4にまとめてみた。〈誰でもなる可能性がある〉と肯定的な見方をしているのは12名(10.7%)であった。それにたいして、〈暗い、閉ざされている〉といったイメージと、〈怖い〉というのが、共に14名(12.5%)であった。〈怖い〉が平均的に見られるのに対して、

〈暗い〉は2年生に多く見られた。〈環境によって起こる〉と成因をのべたもの、〈治りにくく、困難な難しい病気だ〉と性質をのべたものは3年生以上に多かった。また、知人や友人の精神病を思い出したり、近くの精神病院を思いだしたのが12名いた。

5) グループ発表でどのようなテーマを選んだか

後期のグループ別の発表で、各学生がどのようなテーマを選んだかをまとめたのが表5である。現代社会学科の学生は比較的社会病理に、教育学科は、発達障害、学校の問題、子育ての問題等を選び、心理学科はカウンセリング、家族療法など、それぞれが自分たちの専門にそった選択をしていることがわかる。

6) 期末試験での振り返り

期末試験において、「社会精神医学」のなかで

表4 「精神病」という言葉から何を思い浮かべるか

	社会福祉学科	社会福祉以外の学科	2年生	3年生以上	合計
誰でもなる可能性がある	4(7.1%)	8(14.3%)	8(11.0%)	4(10.3%)	12(10.7%)
社会環境の問題	5(8.9%)	8(14.3%)	7(9.6%)	6(15.4%)	13(11.6%)
敏感・繊細	3(5.4%)	3(5.4%)	5(6.8%)	1(2.6%)	6(5.4%)
遺伝・偏見	0	6(10.7%)	1(1.4%)	5(12.8%)	6(5.4%)
難しい病気・たいへん	4(7.1%)	5(8.9%)	5(6.8%)	4(10.3%)	9(8.0%)
同情・かわいそう	0	4(7.1%)	2(2.7%)	2(5.1%)	4(3.6%)
暗い・抑圧された	8(14.3%)	6(10.7%)	10(13.7%)	4(10.3%)	14(12.5%)
怖い	7(12.5%)	7(12.5%)	9(12.3%)	5(12.8%)	14(12.5%)
別世界・おかしい	5(8.9%)	3(5.4%)	5(6.8%)	3(7.7%)	8(7.1%)
単語・言い換え	16(28.6%)	8(14.3%)	18(24.7%)	6(15.4%)	24(21.4%)
個人的な思い出	7(12.5%)	5(8.9%)	9(12.3%)	3(7.7%)	12(10.7%)

もっとも印象に残っていることを自由に記述させた。その内容を表6に示した。大きく分けると、A) 自分自身の見方が変わったもの、B) 知識としての関心、C) 授業の形態に関するものに分けることが出来る。それを、2年生と3年生以上、社会福祉科とそれ以外とで比較した。

34人(22.8%)が精神障害者に対する見方が変わったとしている。それまでの自分の考え方に偏見があったこと、だれでも起こり得る身近な問題として受けとめるようになったものも多い。これは、全てのグループに見られるものの、社会福祉学科の学生に少し多かった。それにたいして、社会との関連、社会の変革を求めているものは社会福祉以外、とくに現代社会の学生に多かった。自分自身の体験として、将来役立つ、あるいは自分の知人にたいして役立ったというのは、実際にボランティアなどの社会活動をしている社会福祉の学生に見られた。

知識に関しては、全体に知識が広がったというものから、歴史の問題、脳の構造、精神障害、社会病理、危機援助など、いずれも2年生の方が強く感じているようであった。

授業の方法に関しては、多くの意見が書かれて

あった。後期のグループ別の発表に触れたものが40人(35.7%)で、<発表の時間が短くて十分に出来なかった>という2、3の意見をのぞけば、たいへん好評であった。それは、深く調べることの面白さを述べたものが多く、2年生に多く見られるところからも、それまでの授業形態とは異なったやり方に関心を示したように思える。それにたいして、3年生以上が興味を示したのは、話し合い形式のグループおよび、筆者によるフィードバックであった。心理学科の学生には、筆者の行った、サイコドラマの技法で学生を動かして脳の構造を示したことに印象を持ったものが見られた。

4. 考察、

1) 「社会精神医学」への関心

本校の生徒においても「社会精神医学」への関心が高く見られるということがうかがえる。その内容は、やはり精神医学というものに対する興味であるように思われる。社会福祉学科では、専門と結びつけて将来に役立つものとして社会精神医学を選択しているが、他の学科の学生では、純粋に精神医学への関心から選択しているように想像される。とくに社会人入学の学生の中には、本来

表5 どのようなテーマを選択したか

学 科	選 択 し た テ ー マ
社会福祉学科	精神遅滞・神経症・小児ノイローゼ・境界人格障害 精神分析・芸術療法・サイコドラマ・薬物療法 性の異常・宗教・異文化・犯罪・夫婦の問題
現代社会学科	躁鬱病・薬物依存・アルコール依存 労働問題・老いと死・脳死・ホスピス・人権
教育学科	発達障害・過食拒食・子育て問題・学校問題
心理学科	カウンセリング・家族療法・セルフヘルプグループ
文化学科	過食・拒食・森田療法

の自分の職業と結びつけて選択しているものもいた。一部に、自分の知人、友人の病気と関連して選択しているものもいた。いずれにせよ、単に職業上というだけでなく、精神医学がごく身近なものとして認識されてきているように思える。集計はしなかったが、本校に入学して、嫌なこと、問題点として、〈学校が遠いこと〉をあげているものがかなりいたが、そのような人にとっては、第1時限の本授業は取りにくいと思われる。それでも、これだけ選択されるということは、これらのテーマが現代の課題となっているからではないだろうか。選択にあたって、便覧を参考にしたと書いたものは意外と少なかった。しかし、次の質問のなかでは、明らかに便覧を読んで期待しているものも見られた。サイコドラマへの関心はとくに心理学科に見られたし、グループを重視した授業に期待するものも少なくなかった。

この講座に期待するものが、知識を求めていることは当然であろう。〈自分がなにかをしたい、活動に役立てたい〉というものがもう少し多くて

も良い感じがするが、さすがに、社会福祉を選考する学生は、本来その志向が強いものが多いように思えた。実際において、期末試験の感想では、すでに、多くのボランティア活動に参加して、そこで役立ったとのべているものもいる。他の学科の生徒で、このような活動が出来る社会福祉学科を羨む発言も見られた。

「精神病」という言葉に対するイメージが一般に暗いものであり、多くの偏見が存在することは否定できない。それは、大学生において、社会福祉を選考しようとするものにどのくらい見られるかが知りたいところであった。結果としては、〈自分たちと変わらない〉〈社会環境によって起こる〉という肯定的、中立的な意見と〈怖い、暗い〉といった否定的なイメージとがともに見られた。3年生になると、さすがに、〈治療の難しい病気〉〈社会との関連が深い〉〈偏見の中にある〉といった社会的観点からの意見が多くなる。このようなものが授業の成果としてどのように変化しているか、期末試験での感想を表6で見ても

表6 「社会精神医学」授業で印象に残ったこと

	社会福祉学科	社会福祉以外の学科	2年生	3年生以上	合計
偏見をなくした	21(37.5%)	13(23.2%)	21(28.8%)	13(33.3%)	34(30.4%)
自分に役立った	10(17.9%)	9(16.1%)	12(16.4%)	7(17.9%)	19(17.0%)
社会を変える必要を感じる	14(25.0%)	12(21.4%)	9(12.3%)	17(43.6%)	26(23.2%)
知識を広げる	13(23.2%)	7(12.5%)	11(15.1%)	9(23.1%)	20(17.9%)
精神医学の歴史	10(17.9%)	4(7.1%)	8(11.0%)	6(15.4%)	14(12.5%)
脳の仕組み	8(14.3%)	2(3.6%)	7(9.6%)	3(7.7%)	10(8.9%)
危機理論	5(8.9%)	1(1.8%)	2(2.7%)	4(10.3%)	6(5.4%)
自閉症・分裂病・過食	3(5.4%)	1(1.8%)	3(4.1%)	1(2.6%)	4(3.6%)
犯罪・虐待・人権	14(25.0%)	3(5.4%)	14(19.2%)	3(7.7%)	17(15.3%)
ビデオが良かった	30(53.6%)	5(8.9%)	23(31.5%)	12(30.8%)	35(31.3%)
サイコドラマ	4(7.1%)	4(7.1%)	3(4.1%)	5(12.8%)	8(7.1%)
グループ発表	31(55.4%)	9(16.1%)	22(30.1%)	18(46.2%)	40(35.7%)
話し合い	7(12.5%)	8(14.3%)	2(2.7%)	13(33.3%)	15(13.4%)

ると、30%のものが、この授業で精神障害者に対する見方が変わったこと、偏見を持っていたことを自覚し、それが変わったことをのべている。この点から言っても、「社会精神医学」講座の意味があるといえよう。ただ、それを社会全体の改革へと結びつける発言が社会福祉学科に少なかったのが残念である。たぶん、それは2年生がほとんどであるということとも関連があるのかもしれない。しかし、自分自身の活動として援助していきたいという意向があるのだから、やがては社会的なものへと発展させていくものはあると考えて良いだろう。

2) 社会福祉学科学生の特徴

学科の選択科目であるために、ある程度必要なものとして選択している。他の科に比較して、2年生が圧倒的に多いということもあって、社会福祉の特徴か、2年生の特徴かわかりにくいところもある。講座にたいして、〈具体的で、わかりやすく〉という注文が多いのも2年生という面が大きいだろう。精神病を心理的な面からとらえようとしているが、3年になると社会的面が強くなってくる。それらは、他の授業からの影響もあると思われる。社会福祉学科では、さまざまなボランティア活動を始めるものが多く、その結果が、期末試験時の感想のなかに反映されてくる。ボランティア活動のなかで役だったという感想もある。それは、期待するところに〈自分を役立てたい〉としているものが多いこととも関連してくる。グループによる取り組みに、他の科の学生より、強く印象づけられているのも、本来行動的、前向きの姿勢を持っているからかもしれない。他学科の学生が、むしろ純粋の好奇心で参加し、話し合いの方に関心を持っているのと対照的である。新しい知識に素直に反応し驚く感受性と、好きなテーマにグループで打ち込むことに意義を見いだす前

向きで活動的な傾向が社会福祉への志向と結びついたのであるのではないだろうか。今後を期待したい。

3) 授業形態についての考察

学生の積極的な姿勢を判断するものとして、本講座の授業形態への感想がある。全員参加とコミュニケーションを目的として筆者が構成した授業形態がどのように受け入れられているかが関心であった。表6に見るように、グループ発表に大きな意義を見いだしているものが多い。与えられる形式の授業が多かった1年生の講座への反動もあるのかもしれないが、自分自身が参加する形態に、大学らしさと新鮮さを感じているのが読み取れる。精神医学を学ぶには、たとえ一つでも、自分で取り組んでみるのが役立つと考えて試みたのであるが、その狙いはあたっていたように思う。本学部で取り組んでいる、カリキュラムの改革、基礎ゼミなどの導入にも通じるものがあるといえる。ただ、グループ発表への驚きが3年生になると減少するのは、3年になるとそのような研究とレポート形式の内容の講座が増えてくるので新鮮さがなくなるのだろうか。それにたいして、講義のあとのグループの話し合いの意義については、むしろ3年生の方が強く感じているようだ。教育学科の一人は、このような授業形態に感銘し、自分が教師になったら、このように楽しい参加できるやり方を取り入れてみたいとまで言っている。〈講義で聞いたことを話し合いの中で整理するのに役立つ〉という意見もあるが、これも筆者が狙った一つである。〈他の人の感想を読むのが楽しみだ〉というものもあり、コミュニケーションを狙ったこの方法は成功しているように思える。ただ、グループ発表に関しては、あまりにも人数が多いために、十分な時間が取れなかったり、グループの発表も中途半端で終わったり、後の話し合いに齟

寄せが来たことが指摘されているが、これは難しい問題で今後の検討が必要であろう。参加型の授業にする一つとして、サイコドラマ的技術を導入し、パフォーマンスで脳の構造を示したことがあるが、それを挙げた人もいる。〈私は「橋」の役割を演じたのが忘れない〉という記述もあった。脳の構造のように複雑なものは、人間を使って、立体的に見せるのが効果があると思っていたが、参加したものはそれを感じていたようである。

その外、ビデオの導入が好評のようであった。NHKが放映した映像そのものが良く出来ていたということもある。今後このような教材は積極的に使用していく必要がある。ただ、同じビデオにしても、2年生は、多重人格や頭蓋骨に鉄棒が貫通した男の話し等興味本位的なところがあるが、3年生になると、老夫婦のリハビリテーションのような夫婦の愛情を描いたものに視点が移ってくる。このような映像も、ただ面白いだけで終わらせないためにも、レビューを狙った話し合いは重要で、〈話し合いの中で、もう一度整理できるのが良かった〉という意見になる。今後も、新しい良いビデオを利用していくつもりである。

5. 終わりに

今回、「社会精神医学」の授業の中で行なったアンケートと、感想を整理することで、この講座の意義と、教育形態の意味を評価してみることが出来た。期末試験のさいには、採点に忙しくてゆっくり読んでいなかったことがわかり、学生の貴重な体験を改めて見なおす機会ともなった。この結果を生かし、さらに良い講座に育てていきたいものである。